

授業を改善するために

授業の流れに沿って、改めて、授業でやるべきことを確認してみます。

学習課題

授業者の「教えたい」を生徒の「考えたい」「調べたい」「学びたい」に変える工夫が求められます。生徒の追究意欲を引き出す必要があります。学習課題は、焦点化されており、どの生徒でも具体的に何を考えればよいのかがわかるようにしなければなりません。学習課題の設定が、授業のよしあしを左右します。「共書き」を取り入れたり、音読をさせたりすることが有効です。

自力解決

考える時間を十分に確保することが大切です。その間に、机間指導もできます。自力解決が形式的に設定され、何をすればよいかわからない生徒にとっては、苦痛の時間でしかありません。何をもとに考えるのか、見通しや予想をもたせることも必要です。個人で考える時間が十分でないと、次の段階に進んでも、授業はうまくいきません。

発表・話し合い

ここでは、思考を共有・吟味するための発問や教師の働きかけが大切です。意見や考えをどのようにつなぎ、どのようにして学びを深めていくかということです。「つなぐ・ゆさぶる・認める」を意識した発問や問い返し、生徒の表情やうなずき、つぶやきの見取り、意図的指名などの働きかけが必要になってきます。一問一答で授業が進められたり、学習課題に対して思考を促す発問がなかったりする授業は避けたいところです。

まとめ・適用

本時の学習課題と学習活動との整合性・一貫性のある「まとめ」をすることが重要です。本時の授業で「何がわかったのか」「どんな力を身に付けたのか」を明らかにする、ねらいに沿ったまとめです。また、まとめと振り返りは違います。まとめの主語は「私たちは」、振り返りの主語は「私は」です。

振り返り

「振り返り」は、生徒の学びや気づきを自覚させ、さらに新しい学びへとつなげるために、毎時間授業で行うものです。本時の学習内容や方法を振り返る視点を提示する必要があります。振り返りによって、学習がわかった喜びを自覚し、先生や友達と一緒に学ぶことの楽しさを感じる時間が、授業の最後にあることが大切です。振り返りまで到達しない授業にならないように、振り返りを発表させる時間まで計算しておくといいかもかもしれません。

今年度は、特に以下のことを授業に取り入れることが重要です。「係り受け解析」と「照応解決」は、どの教科でも、毎時間、常に意識するようにします。

- 学習課題の共書き（聴写）
- 自力解決の時間の確保と発表
- 親密度の低い言葉の確認
- 振り返りの時間の確保と発表
- 一つでもいいからリーディングスキルの視点を意識した学習活動

これらのことをみんなでやることにより、生徒が変わっていきます。すなわち、授業が改善していきます。